

## 斑点米カメムシ類の発生量が増加傾向にあります

7月中旬のイネ科雑草地における斑点米カメムシ類（写真1～4）発生量（県内34地点平均）は、少なかった6月下旬調査時に比べて地点率、すくい取り頭数（20回振り）とも増加し、クモヘリカメムシ以外は平年を上回っています（表1）。また、クモヘリカメムシについても、中山間地では100頭以上となった地点もあり、平野部でも飛来が確認されています（図1）。

8月の平均気温は高いと予想され、斑点米カメムシ類の発生に好適な気象が続きます。今後、水稻に割れ粃（写真5）が発生すると、登熟期後半にカスミカメ類による吸汁が容易になり、斑点米の被害が拡大するおそれがあるため注意が必要です。

表1 イネ科雑草地における斑点米カメムシ類成虫の発生状況

分 類	発生地点率(%)			頭数(頭)		
	7月中旬		6月下旬	7月中旬		6月下旬
	本 年	平 年	本 年	本 年	平 年	本 年
クモヘリカメムシ	38.2	63.9	5.3	11.6	40.5	0.1
ホソハリカメムシ	82.4	67.9	29.8	5.5	2.6	0.8
アカヒゲホソドリカスミカメ	94.1	81.1	78.9	24.4	24.0	4.2
アカスジカスミカメ	88.2	66.3	75.4	40.0	36.5	5.8

※7月中旬:7月11、17日34地点(6月下旬:6月26、27日57地点)で20回振りすくい取り調査を実施  
※平年値:平成14年～23年の平均値(アカスジカスミカメの平均値は平成15～23年)

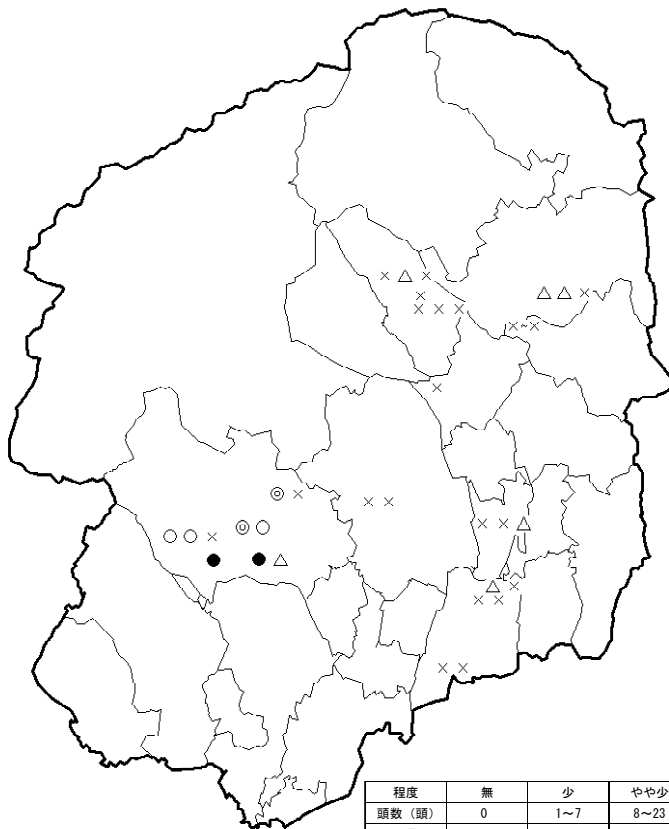


写真1 クモヘリカメムシ  
(上:成虫、下:幼虫)

図1 クモヘリカメムシ成虫の地点別発生状況(7月中旬)



写真2 ホソハリカメムシ



写真3 アカヒゲホソミドリカスミカメ



写真4 アカスジカスミカメ



写真5 割れ粒

#### 防除対策

- ・ 水稻の生育状況、斑点米カメムシ類発生状況に応じた適切な防除を行いましょう。
- ・ 穂揃期に斑点米カメムシ類が水田内で見られる場合は、乳熟初期（出穂期7～10日後）までに防除しましょう。
- ・ その後もカメムシ類が見られる場合は、7～10日間隔で1～2回の追加防除を行いましょう。

表2 水稻のカメムシ類に登録のある主な薬剤（平成24年7月20日現在）

薬剤名	希釈倍数又は使用量	使用時期／使用回数
スタークル液剤10 (スタークルメイト液剤10)	1000倍	収穫 7日前まで／3回以内
MR. ジョーカーEW	2000倍	収穫 14日前まで／2回以内
キラップフロアブル	1000～2000倍	収穫 14日前まで／2回以内
スミチオン乳剤	1000倍	収穫 21日前まで／2回以内
トレボンEW	1000倍	収穫 21日前まで／3回以内

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。

Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012